

ひと・まち・みどりを未来へつなぐ

# 板橋区



板橋区制施行80周年記念誌



板 橋 区

ITABASHI

ew



● 目次

記念誌刊行にあたって

板橋の歴史とシンボル

板橋宿

4

国指定重要無形民俗文化財

田遊び

6

板橋の商業

賑わい

8

板橋の産業

技術力

9

板橋のビッグイベント

心躍る

10

未来へつなぐ

住みやすいまちづくり

12

都市との交流

みどころマップ

14

対談

伝統と新しさ

16

心地よさを感じる

豊かなまち板橋

年表

板橋区80年のあゆみ

18

データ

数字で見る板橋区

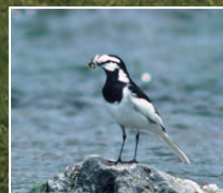
22



区の花「ニリンソウ」



区の木「ケヤキ」



区の鳥「ハクセキレイ」



区の紋章





板橋区長

坂本 健

平成24年10月1日

昭和7年10月1日に板橋区が誕生し、本年、区制施行80周年を迎えました。

板橋区は、今や人口約53万人を擁する生活都市であり、歴史と新しい時代の息吹が調和を奏でる魅力あるまちです。区内には、区名の由来ともされる、旧中山道の石神井川に架かる「板橋」をはじめ、数多くの有形・無形の文化財が今も息づき、地域に共通のよすがとなって彩りと潤いをもたらしています。また、賑いある商店街を中心とする商業、緑豊かな赤塚地域における都市農業、荒川沿岸部などの活力ある工業は、新しい価値を創造し続けています。

私たちには、先人が築き上げてきた歴史ある郷土に誇りを持ち、次代に引き継いでいく責務があります。これからも、あたたかい心の絆によって結ばれ自治の精神に溢れるまち、いつまでも安心して住み続けられるまち「いたばし」をめざし、区民のみなさまとともに力を合わせて取り組んでまいります。

## 記念誌刊行にあたって





# 板橋宿



現在の板橋

徳川幕府により中山道第一番目の宿場町として設置された板橋宿は、上宿・中宿(現在の仲宿)・平尾宿の3つの宿場からなり、天保年間(1830~1844年)の時点では、本陣は中宿に1軒、脇本陣は各宿の名主が兼帯し、旅籠は54軒ありました。宿場名や区名の由来となったともいわれたい

## 板橋宿の面影

江戸時代に整備された街道と宿場町を中心に発展してきた板橋区。多くの史跡が残る旧中山道「板橋宿」の周辺は、石神井川沿いの桜も見事で、歴史と自然に恵まれた区民自慢のスポットです。

## 中山道第一番目の宿場町として発展

日本橋から二里二十五町三十三間



「木曾街道板橋之駅」英泉画 現在のJR板橋駅付近



明治8年頃の板橋

## 明治



江戸時代の板橋

## 江戸





縁切榎／江戸時代から板橋宿の名所として名高く、悪縁は切ってくれるが良縁は結んでくれると、庶民の信仰を集めていた。



石神井川の桜



文殊院／1600年頃に創建された真言宗寺院  
板橋宿本陣を務めた飯田家の菩提寺

る「板橋」は、石神井川に架かる旧中山道の橋であり、江戸時代当時は、長さ9間(16.2メートル)、幅3間(5.4メートル)の太鼓橋でした。

この「板橋」を往来したのは、文政4年(1821年)の時点では、加賀藩前田家をはじめ、9か国41大名であり、幕末動乱期の文久元年(1861年)の皇女和宮の降嫁行列も最後に板橋宿に宿泊しています。

このように板橋宿は、江戸時代を通じて北陸・中山道方面の交通の要所、江戸の玄関口として、活況を呈していました。

昭和7年、「板橋」はコンクリート製の橋に架け替えられ、同年10月の板橋区誕生に花を添えました。

現在、かつての宿場町は商店街に姿を変え、にぎわいを見せる中、周辺には多くの名所・史跡が残されており、歴史の面影にふれることができます。

### 石神井川の桜並木

歴史の舞台となった「板橋」の下を流れる石神井川の両岸には、昭和9年以降、中板橋から加賀付近にかけて、約千本の桜の木が植えられています。花見の頃は、ソメイヨシノを中心にヤマザクラやオオシマザクラなどが咲き誇り、「板橋十景」にも選ばれるように、区内を代表する桜の名所となっています。



昭和初期の板橋

## 昭和



大正時代の板橋

## 大正



千年の歴史

# 田遊び

近郊農村として発展してきた赤塚・徳丸地区には旧正月にその年の五穀豊穡と子孫繁栄を祈願する神事が千年の昔から受け継がれています  
「田遊び」は、赤塚諏訪神社と徳丸北野神社で行われともに国の重要無形民俗文化財に指定されています



## 赤塚諏訪神社

### 赤塚諏訪神社の田遊び

毎年2月13日(旧正月月13日)の夜7時頃から、大門に所在する諏訪神社境内および境外地で行われます。

その創始の時期については不詳ですが、江戸時代の記録の中には、大昔から行われ、古風が失われていない祭礼と紹介されています。

赤塚の田遊びは、田遊びを主導する「大稲本」と補佐役の「小稲本」、「鋏取り」が構成員となっており、所作をはじめ、笛の演奏なども口伝によって今日まで伝承されています。今でも大門地域の人々によって昔と同様に五穀豊穡や子孫繁栄を祈願して行われています。





徳丸北野神社

徳丸北野神社の田遊び

毎年2月11日(旧暦正月11日)の夜6時頃から、徳丸六丁目目にある北野神社で行われます。

長徳元年(995年)、天満宮(現、徳丸北野神社)創建の時に、奉祝行事として地元の田夫(農夫)が「田阿曾美之祭(たあそびまつり)」を行ったのが起源とされています。

徳丸の田遊びも赤塚と同様に、主導役の「大稲本」、補佐役の「小稲本」と「鍬取り」が構成員となっています。また、その創始以来一年も休むことなく執り行われてきたといわれており、水田が姿を消した今も、昔と変わらずに五穀豊穡・子孫繁栄を祈願する田遊びが継承されています。



# 賑わ



ハッピーロード大山商店街／アーケードは全長約540メートルで全国屈指のにぎわいをみせる

賑わいと活気あふれる商店街  
魅力ある板橋のいっぴんなど  
商店の活力が街を元気にします

# い

板橋区内には、100もの商店街があり、特色ある取り組みやイベントが練り広げられ、にぎわいと活気にあふれています。

交流都市のアンテナショップ「とれたて村」や、旧中山道の「縁切榎」から「むすびのけやき」までの9商店街でおみくじを引きながら、旧板橋宿を散策できる「板橋縁宿」など、商店街の活性化と新たな魅力を創出する取り組みも活発です。

また、地元で愛され親しまれているお惣菜・お菓子・お酒などを、区民から募集し、公募委員による選定委員会の審査を経て「区民が選んだ板橋のいっぴん」として認定しています。どれも作り手の創意工夫と温もりにあふれた板橋の魅力といえる「逸品」で、現在、74品が認定されています。



## 板橋お伝え最中

「区民が選んだ板橋のいっぴん」の一つで、区内にある8店舗の和菓子屋さんでつくる「板橋和趣会」が開発したものです。板橋に伝わる昔話のキャラクターをモチーフにデザインしています。



## とれたて村

交流自治体の新鮮野菜や特産品がずらりと並ぶとれたて村。現在、ハッピーロード大山商店街と上板南口銀座商店街の2店舗。交流自治体が入替わりでまちの宣伝にやってくる週末の「ふる里イベント」は大好評です。





# 技術

# 力

世界でもトップクラスの技術を誇る  
光学・精密機器と  
製造品出荷額、全国一の印刷業

板橋区は、全国でも有数の工業集積地域です。23区内では、製造品出荷額等が第1位、従業員数が第2位となっています。

板橋区の工業化は、明治9年に建設された板橋火薬製造所から始まり、戦時体制のもと軍需工場が集積。戦後、その技術者たちが区内で数多くの工場を立ち上げました。特に光学機器の工場が多く、圧倒的な製造力・技術力で、昭和37年と38年の日本の光学機器輸出額の70パーセントを板橋区で製造していました。

現在では、光学・精密機器産業と、高度経済成長期に伸びてきた印刷業が、板橋区の地場産業として挙げられ、国内をはじめ海外シェアにおいてトップクラスの企業が多く、最先端の技術と品質を誇っています。



## 製品技術大賞

区内中小企業の優れた新製品や新技術を表彰する制度。平成23年度最優秀賞には、国産初の機能が搭載された天体撮影用望遠鏡が選ばれました。



## 産業見本市

受発注活性化を目的に、区内製造業を中心とした企業が出展する産業展示会で、今年16回を数えます。製品・技術の展示、セミナーなど、自治体単独での開催としては、23区で有数の規模を誇ります。



## 印刷業

印刷関連業は、全国一の製造品出荷額(平成20年 工業統計調査)を誇り、区内工業の中でも事業所数、従業員数、製造品出荷額等、付加価値額ともに高い割合を占める地場産業です。



## 光学精密

「光学の板橋区」といわれるほど、高度経済成長を支える原動力となっていました。現在でもカメラや測量機器、各種センサーなど光学・精密機器産業の工場や研究施設をはじめ、本社・本店が多くあります。

光学/光学ガラスに機能性フィルムを接着し偏光板などの光学フィルターを製造中



# 心躍る

# 花火競演



都内屈指の花火大会やマラソン  
板橋らしさと活気に満ちたまつりなど自慢の催事

## いたばし花火大会

対岸の戸田市と合わせて1万発以上の花火が打ち上げられる都内屈指の花火大会です。荒川の夏の風物詩として毎年約50万人の人出でにぎわいます。広い荒川河川敷を生かした尺玉の打ち上げやいたばし花火名物の「ナイアガラの滝」、日本を代表する花火職人による芸術玉の競演など見どころが満載で、「実力のいたばし花火」として注目を集めています。

※8月上旬開催



# MARATHON



## 板橋区民まつり

元気で活力あるまちの実現をめざして開催される、区内最大のまつりです。グリーンホール周辺を中心に、神輿や阿波踊り、区民や交流都市のみなさまによる踊りなどが華やかに行われ、周辺の各会場では物産展など多くの人を楽しませています。

※10月中旬開催



## 板橋農業まつり

農業まつりは、板橋に残る農業の姿を知ってもらい、1年の収穫を盛大に祝おうと開催されます。まつりのオープニングでは、重さ約1.5トンの野菜を満載にした名物の「野菜宝船」が登場し、地元の小学生や農家の人々が宝船を引いてパレードします。

※11月中旬開催



## 板橋Cityマラソン

自然豊かな荒川河川敷で、日本全国から集まった約1万4千人のランナーが健脚を競う市民参加型のフルマラソン大会です。制限時間が7時間とたっぷりあり、コースもアップ・ダウンが少ないことから、初心者にもやさしい大会として多くのランナーに親しまれています。

※3月中旬開催





# 住みやすいまちづくり

板橋区は地域ごとの特色を生かしながら  
先進的な施策を展開し  
住みやすいまちづくりに取り組んでいます



## ■赤ちゃんの駅

赤ちゃんを連れていくとき立ち寄って、オムツ替えなどに利用できるスペースで、区立保育園・児童館など158施設(平成24年5月15日現在)を指定しています。板橋発の「赤ちゃんの駅」は、他の自治体にも広がり、2010年度グッドデザイン・ライフスケープデザイン賞を受賞しました。



## ■コミュニティバス「りんGO」

公共交通サービスの水準の向上や観光・文化の振興を推進するため、赤塚・徳丸・四葉・大門・高島平地域で運行しています。「りんGO」が巡る地域には、数多くの文化施設や自然豊かな公園など見どころが多くあります。乗車料金は、大人210円、子ども110円。

## まよち

### ■板橋三丁目地区防災街区整備事業

板橋三丁目地区防災街区整備事業組合が災害に強いまちづくりと住環境の向上をめざして、密集していた木造建物などを除却し、耐火構造のビルや災害に有効な道路などの整備を行いました。板橋三丁目地区には、都内初として整備事業が導入され平成22年10月に竣工しています。



### ■ワインブロックの街とシルバースhirt

リサイクルが難しい輸入ワインびんをはじめとするガラスびんのリサイクルに民間企業・団体などと協働で取り組んでいます。ワインびんを原料に開発した「ワインブロック」や「街のシルバースhirt」を商店街や小学校など、まちのあらゆるところに設置しています。これらは、ワインびん独特の青や緑、茶といった色合いをそのまま生かすことができるので、まちの整備に彩りを加えています。



## みどり

### ■緑のカーテン

ゴーヤーやヘチマなどのつる植物を窓の外に這わせ、夏の強い日差しを和らげ室温の上昇を抑える「緑のカーテン」。板橋区では、平成15年度に区立板橋第七小学校で緑のカーテン作りを始めたのをきっかけに、多くの公共施設をはじめ、商店街や地域ぐるみで取り組んでいます。暑い季節になるとまちのあちからこらで緑のカーテンを見ることが出来ます。





# 未来へつなぐ



姉妹都市提携20周年記念として平成21年8月2日、カナダ最大級のマーチングバンドが志村銀座商店街で迫力のパレードを披露

## ■ パーリントン市(カナダ) 姉妹都市提携 平成元年5月12日調印

昭和60年に板橋区民まつりで「カナダフェア」を開催したことがきっかけとなり、区民ツアーやホームステイなど、区民レベルの活発な交流を行っています。また、友好のシンボルとしてパーリントン市内には「板橋」という橋、板橋区内には「パーリントン広場」や市庁舎のものと同一「街路時計」が設置されており、それぞれ市民に親しまれています。



## ■ ペナン州政府(マレーシア)

友好提携に関する共同声明  
平成6年9月21日調印



## ■ モンゴル国文部省(モンゴル国)

文化・教育交流協定  
平成8年10月19日調印



## ■ 北京市石景山区(中華人民共和国)

友好交流・協力関係に関する合意書  
平成9年10月8日調印

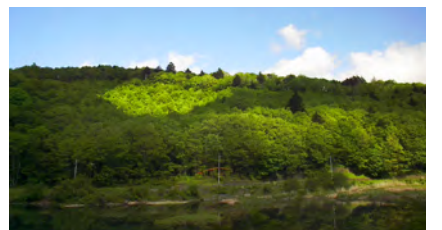


## ■ ボローニャ市(イタリア共和国)

友好都市交流協定  
平成17年7月7日調印

## ■ 金沢市(石川県)

江戸時代、板橋区内には加賀藩の広大な下屋敷があり、現在も「加賀」「金沢」といった名称が地名や学校名などで残されています。このことが縁となり、昭和54年に開催された板橋区民まつりに「豊年太鼓」「ミス百万石」が参加したのを皮切りに交流が始まりました。平成20年7月には、両都市の歴史的なつながりと約30年間にわたる友好関係が結実し、「友好交流都市協定」を締結しました。



## ■ 日光市(栃木県)

日光市には「板橋の森」という森があります。この森は、昭和58年6月に締結された「みどり」と文化の交流協定」の10周年を記念して誕生しました。平成23年10月には、日光市産の「木材の使用と環境教育についての覚書」を締結しており、縁を愛し文化を大切にする心を通わせる交流を行っています。



江戸時代、將軍家に献上した水雪の雪氷に習い、湯涌温泉(金沢市)から板橋区に雪氷が贈呈された



## ■ 大船渡市(岩手県)

板橋区は、東日本大震災で被害を受けた大船渡市に、物資提供や職員派遣を行うなど、復興を支援しています。平成24年6月には、こうした活動を通じて築いた友好の絆を深め、文化や産業の交流を通じて両都市の発展に資することを期待して、「連携協力協定」を締結しました。

# 都市との交流

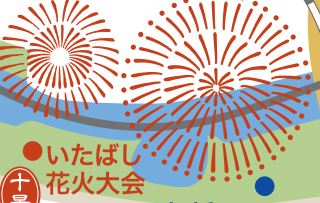
## ■ 災害時における相互援助等協定締結自治体

- 平成7年11月1日締結
  - 栃木県日光市(旧栗山村)
  - 千葉県鴨川市(旧天津小湊町)
  - 群馬県渋川市(旧伊香保町)
  - 茨城県かすみがうら市(旧霞ヶ浦町)
- 平成7年11月3日締結
  - 山梨県都留市
- 平成8年11月1日締結
  - 茨城県桜川市(旧岩瀬町)
  - 新潟県田上町
- 平成10年5月12日締結
  - 福島県白河市(旧東村)
- 平成14年10月22日締結
  - 山形県最上町
- 平成15年10月22日締結
  - 新潟県妙高市(旧新井市)
- 平成19年8月28日締結
  - 群馬県高崎市(旧榛名町)
- 平成20年8月27日締結
  - 群馬県沼田市



# ITABASHI MAP

# まちコミュニティ





**十景 板橋十景**

区制70周年記念に区民公募で選定  
板橋ならではの「みどころ」十選



**板橋 D-3**  
石神井川に架かる橋。板橋の地名の由来ともいわれています



**石神井川の桜並木 D・E-3**  
1,000本を超える桜並木が飛鳥山まで続く桜の名所



**赤塚諏訪神社:田遊び B-2**  
その年の五穀豊穡と子孫繁栄を祈る「予祝」の祭



**徳丸北野神社:田遊び B-2**  
赤塚諏訪神社とともに国指定重要無形民俗文化財



**赤塚溜池公園周辺 A-2**  
3月の梅まつりでは約200本の梅が見ごろを迎えます



**東京大仏(乗蓮寺) A-2**  
平和を祈って建立された高さ13mの青銅製の大仏



**松月院 A-2**  
武蔵千葉氏ゆかりの由緒ある寺。高島秋帆紀功碑があります



**高島平団地とけやき並木 B-2**  
高島平団地と共に成長した四季折々に美しいけやき並木



**いたばし花火大会 C-1**  
都内でも珍しい迫力ある尺玉の打ち上げが楽しめます



**南蔵院のしだれ桜 D-2**  
徳川吉宗が鷹狩りの時休憩した寺。しだれ桜が見事



**志村一里塚 D-2**  
当時の姿を残す貴重な一里塚。国の史跡に指定されています



**●施設**



**郷土資料館 A-2**  
区内で出土した考古資料や歴史資料などを展示



**熱帯環境植物館 B-1**  
東南アジアの熱帯雨林を再現。ミニ水族館もあります



**エコポリスセンター C-3**  
環境に配慮した生活の普及促進のためのコーナーや資料を展示



**美術館 A-2**  
江戸時代の古美術、大正から昭和前期の前衛美術を展示



**リサイクルプラザ C-1**  
ゴミ処理ゾーンとリサイクルを学べるプラザゾーンがあります



**いたばしポロ〜ヤ子ども絵本館 D-3**  
世界80か国2万3千冊の絵本が楽しめる珍しい図書館



**赤塚植物園 A-2**  
600種以上の樹木、草花がある丘陵地を活かした植物園



**植村冒険館 C-2**  
板橋に住んだ植村直己さんの冒険精神を伝える施設



**公文書館 D-3**  
歴史的公文書などを保存・公開。櫻井徳太郎文庫を併設



**ホテル生態環境館 B-1**  
6月にゲンジボタル、7月にヘイケボタルが夜間特別公開



**教育科学館 C-3**  
プラネタリウムや科学展示室があり、コンサートも開催



**いたばし観光センター E-4**  
板橋区の観光情報の発信拠点。観光ガイドも実施

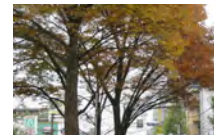
**●公園・史跡・文化財**



**赤塚城跡 A-2**  
戦国時代の千葉氏の居城跡。中世の典型的な平山城



**薬師の泉庭園 D-2**  
徳川吉宗に命名された清水薬師に因って造られた庭園



**五本けやき C-3**  
川越街道工事の際、上板橋村村長が提供し残されたけやき



**出井の泉跡 D-3**  
昔の一角の崖から水が湧き泉となり、川の水源地の一部となった跡



**茂呂遺跡 C-3**  
昭和26年、旧石器時代の茂呂型ナイフが出土。都指定史跡



**縁切榎 D-3**  
悪縁を切り、良縁を結びとされ、庶民信仰を集めています



**安養院の庫裡 C-3**  
旧前橋藩松平家の本邸。昭和4年に当時の麹町区から移築



**加賀藩前田家下屋敷跡 E-4**  
江戸時代にあった加賀藩前田家下屋敷跡。現在は加賀公園



## 対談

伝統と新しさ  
心地よさを感じる  
豊かなまち板橋

常識、良識、美意識をベースに「あったらいいな」を形にする

区長 水戸岡さんの斬新であたまたかいデザインは、多くの人を感動させて、世界的にも高い評価を受けていますね。どのようなことを考えながらデザインを生み出してきたのですか？

水戸岡 昔から日本にある長い歴史の中の知恵、形、色、素材などをうまく使いたいという意識があり、そこに最先端のシステムを合わせていく。こうして新しく懐かしいもの、利用者が使って心地よいと思えるものを作り出しています。心地よい空間をつくれれば、人間はリラックスして笑顔になり、豊かな気持ちになる。そういう時間と場所と道具をつくるのが、われわれデザイナーの仕事だと思っています。

区長 展覧会で拝見した、魚、動物、植物のポスターのリアルな表情と鮮やかな色づかいに感動しました。  
水戸岡 描く対象の美しい瞬間を

想像しながら描きました。以前、博物館の仕事をした時や、百科事典のイラストを頼まれた時に、色と形と、機能を学習しました。ポスターには、正確な形を描いていますが、思い切った色を入れて魅らせてアピールしています。動物や植物を描くことはとても面白い。建築デザインを多角的な切り口で捉える事ができ、デザインの幅が広がります。  
区長 利用者の気持ちをごこまで読み取り、それを生かしてどう強調するか、ということでしょうか。  
水戸岡 はい。ただし、それが、一過性のものではなくて、普遍性と多様性を持ったものが理想です。多くの方が望んでいるからといって、瞬間的にOKなだけでは価値がない。利用者の思いを理解した上で、将来的なことも考えながら、過去の経験からアイデアをもらい、鳥瞰的な視点でものをつくることが重要です。

工業デザイナーとして活躍し、当記念誌のデザインを手掛られた水戸岡鋭治さんをお迎えして、坂本区長と対談を行いました。デザイン、まちづくり、人材育成や、板橋区の魅力の創出などについて二人の思いを紹介します。



サービスを提供する上で重要なのは「人」の思い

区長 昨年、九州新幹線を利用しました。水戸岡さんの素晴らしいデザインを体感したことに加え、乗務員の方のサービス精神あふれる迅速な対応から仕事に対する誇りが伝わり、感銘を受けました。



水戸岡 車両の色、形、素材、外観も大事ですが、最も大切なのはサービスですね。目配り、気配り、心配りにスピード、笑顔、これが大切です。JR九州では、現場の社員が、トップの心意気をお客様に伝えるという意識が高いのです。

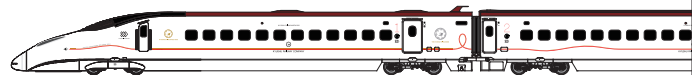
現場は一期一会を大切に柔軟に対応している。日々の応対の中で、いかに感動を与えるかということを十分に体現されてきました。

区長 企業が現場を大事にしている、

水戸岡さんは、人材育成についてどのような思いで取り組んでいますか？

水戸岡 総合的で創造的な視点で、誠心誠意フェアプレイをしていくことをスタッフにも伝えているつもりです。

手間暇をかけることを惜しまない。体力、気力、知力でどんな困難も乗り越えられると思っています。それをどうやって育んでいくかという、日々の研鑽が不可欠です。



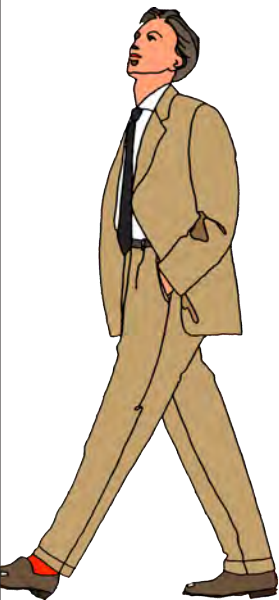
水戸岡 鋭治(みとおか えいじ)さん

JR九州の「九州新幹線」など鉄道車両や、バス、船、駅舎などのデザインを数多く手掛け、「交通文化賞」「毎日デザイン賞」など鉄道デザインにおける数々の賞を受賞。またこれまでの業績に対して「第59回菊池寛賞」「平成23年度区民文化栄誉賞」を受賞した。(中丸町在住)



EIJI MITOOKA





水戸岡 公共という教育は、本来は、家庭や地域で行うものです。看板がなくても、キャッチボールをし

難しいところです。

区長 公共のサインのあり方について、難しさを感じています。例えば公園の看板には、キャッチボール禁止とか、ごみ捨て禁止など、禁止の看板が数多くあります。

次代を担う子どもたちのために正しい選択をしたい

区長 私は「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」の3つのナンバーワンをめざし、区政経営を進めています。中でも「人づくり」が最も重要だと思い、最初に挙げています。区内には、現場を支える「人」を大切にしている企業が数多くあり、成果につながっています。

成功し、ほめられると感動し、充実感につながり、更にその上をめざしていく。

成功体験をすると、何かを感じ、それを次の世代に教えていく。みんなが、充実感をもてる仕事の仕方をしていきたいと思っています。

区長 私は「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」の3つのナンバーワンをめざし、区政経営を進めています。中でも「人づくり」が最も重要だと思い、最初に挙げています。区内には、現場を支える「人」を大切にしている企業が数多くあり、成果につながっています。



暇がかかるとしても正しい選択をしたいと思っています。

区長 いい話ですね。公園をつくる時に、樹種と組み合わせを誤ると数年かして木の成長が止まってしまい、そうなるも森は枯れていく。これを考慮して植樹し、100年以上経った現在も循環できている天然のような人工の森がある。まちづくりも同じことで、100年あるいは、もっと無限に都市は成長することが



可能です。人々が先をどう考え、行動していくかが大事だと思います。

伝統をもとに新しい文化を重ねてオンリーワンの魅力を創出

区長 今年は板橋区制施行80周年です。板橋区の伝統や文化、産業、自然など、その素晴らしさを区の内外に積極的に発信していきたいと思っています。今回は、記念誌と板橋区のロゴデザインを水戸岡さんをお願いし、板橋区の魅力を新しい視点から表現していただきました。

水戸岡 板橋区には、長い歴史に培われた伝統と文化がある一方、時代の先端をいく産業技術があり、古いものと新しいものが複雑に絡んだ元気で多様性のあるまち、という印象をもっています。記念誌では、こうした特色をふまえ、板橋区が過去・現在・未来が美しく融合した魅力的なまちであること

区長 今後10年20年先に向けて、板橋区がさらに発展し、発信力を高めていくために、何かアドバイスはありますか？

水戸岡 このまちは今、生きている

区長 私は「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」の3つのナンバーワンをめざし、区政経営を進めています。中でも「人づくり」が最も重要だと思い、最初に挙げています。区内には、現場を支える「人」を大切にしている企業が数多くあり、成果につながっています。

感じがあり、やり方次第では面白くなると思います。例えば、今年、まちづくり計画を作り、それをデザイン化し、皆さんに見ていただき、意見をいただく。伝統をもとに新しい考え方を重ねて、板橋の文化と経済、そして景観をつくっていくとオンリーワンの魅力が創出され、美しく、楽しく、上品なまちが生まれると思います。

区長 魅力的なブランドデザインをまとめていく上で、公共コミュニケーション空間など、よい都市環境をつくるためのキ

水戸岡 心と体で本当に心地良いまちがどのようなまちか？個人は質素に公共は豊かに、とか、やっぱり

「心」がキーワードになる。豊かなコミュニティケーションが生まれる豊かなまちが、どこまでつくれるかが重要ですね。

区長 私たちには、先人たちが築いて来られた「伝統」「文化」「地域の絆」など、「豊かな板橋」を未来へ引き継いでいく責任があります。

今後、区民のみなさんと力を合わせて、豊かさを更に実感できるまちづくりを進めていきます。

坂本 健 (さかもと たけし) 区長

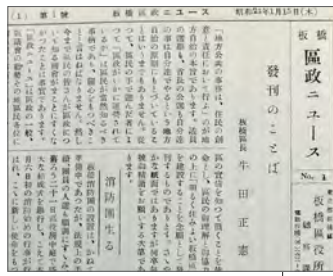


TAKESHI SAKAMOTO

平成19年に板橋区長に就任し、現在2期目。板橋区が「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」において、東京で一番となることをめざし、区政経営にとりくむ。「もてなしの心」による区政を推進している。



# 板橋区80年のあゆみ



昭和23年/「板橋区政ニュース」第1号



昭和7年/当時の区役所庁舎



昭和7年/板橋区誕生にわく区民

Year	Population	Key Events
1955	303,000	■ 区民会館(現区立文化会館)が落成
1954	291,000	■ 板橋区の人口が30万人を突破
1953	285,000	■ 板橋区商店街連合会が結成。加盟44商店街、3127名
1952	278,000	■ 板橋区教育委員会が発足
1951	264,000	■ 戸田町と共催で納涼花火大会を開催
1950	254,000	■ 第2代公選区長(第12代)に渋谷常三郎が当選
1948	238,000	■ パン・脱脂ミルク・おかずの三品給食が始まる
1947	223,000	■ 埼玉県戸田町の一部(約0.2平方キロメートル)が編入
1946	215,000	■ 都内初の区立結婚相談所を開所
1945	211,000	■ 「板橋区政ニュース」第1号を発刊
1944	208,000	■ 板橋区の一部を分離し、練馬区が誕生。東京23区となる
1943	205,000	■ 六三制の実施に伴い新制中学11校が誕生
1942	204,000	■ 地方自治法の施行により特別区となる
1941	202,000	■ 初代公選区長(第11代)に牛田正憲が当選
1940	201,000	■ 板橋産業協議会(現板橋産業連合会)が発足。加盟387社
1936	199,000	■ 大空襲により区役所、板橋駅、養育院など区内主要建物が焼失
1933	198,000	■ 新川越街道が区内全線開通
1932	197,000	■ 区内国民学校児童が群馬県利根郡下に集団疎開
昭和7年10月	117,000	■ 市郡併合により東京市板橋区が誕生。区役所を旧北豊島郡役所に開設
1931	115,000	■ 第1回板橋区会議員選挙(定員36名)
1930	114,000	■ 荒川改修および新河岸川開削工事が完成
1929	113,000	■ 新中山道(現国道17号)が開通
1928	112,000	■ 東武鉄道が常盤台住宅の分譲を開始
1927	111,000	■ 板橋区役所新庁舎が落成
1926	110,000	■ 府制を廃止し、東京都を設置。区は東京都板橋区となる



昭和25年/当時の給食の風景



昭和19年/集団疎開の様子



昭和17年/板橋区役所新庁舎が落成





昭和43年／都営地下鉄6号線が開通



昭和41年／さよなら都電志村線



昭和33年／台風22号による被害(現本町)

1980	1979	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1969	1968	1967	1966	1965	1964	1962	1961	1960	1959	1958	1957	
55	54	53	52	51	50	49	48	47	44	43	42	41	40	39	37	36	35	34	33	32	30
10	5	11	8	5	4	4	7	10	4	12	4	5	4	1	12	5	5	12	9	3	8
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 区の花を「ニリンソウ」に決定</li> <li>■ 区の木に「ケヤキ」を指定</li> <li>■ 都内初の区立美術館が開館</li> <li>■ 第15代区長に栗原敬三が当選</li> <li>■ 第1回赤塚農業まつりを開催</li> <li>■ 首都高速5号線、北池袋・高島平間が開通</li> <li>■ 徳丸北野神社と赤塚諏訪神社の田遊びが国の重要無形民俗文化財に指定</li> <li>■ 老人いこいの家を新規開設</li> <li>■ 保健所が東京都から移管、衛生部を設置</li> <li>■ 区長公選により加部明三郎が当選</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地方自治法の一部改正により、区長公選復活や原則市並みに自治権拡充</li> <li>■ 産直事業が始まる(豚肉・野菜)</li> <li>■ 高島平団地の入居が始まる</li> <li>■ 第1回区民祭りを開催</li> <li>■ 高島平団地の建設が始まる</li> <li>■ 区民農園を開設</li> <li>■ 板橋区立産業文化会館(現グリーンホール)が開館</li> <li>■ 都営地下鉄6号線(現都営三田線)巢鴨〜志村(現高島平)間が開通</li> <li>■ 板橋区立産業文化会館(現グリーンホール)が開館</li> <li>■ 地下鉄工事のため都電志村線を廃止</li> <li>■ 福祉事務所が東京都から移管</li> <li>■ 東京オリンピック聖火が板橋区を通過</li> <li>■ 環状7号線が開通</li> <li>■ 板橋区議会、第14代区長として加部明三郎を選任</li> <li>■ 板橋区役所新庁舎(旧南館)が落成</li> <li>■ 板橋区町会連合会が発足。加盟146町会</li> <li>■ 板橋区町の人口が40万人を突破</li> <li>■ 板橋区・上板橋地区が板橋町会連合会を発足。加盟55町会</li> <li>■ 台風22号により石神井川などがはん濫。被災者5万6千人余</li> <li>■ 日本住宅公団蓮根団地の入居が始まる</li> <li>■ 地方自治法改正による議会選任区長(第13代)として村田哲雄が就任</li> </ul>																				



昭和44年／高島平団地の建設



昭和39年／東京オリンピック聖火が板橋区を通過



昭和30年／区民会館落成











# 数字で見る板橋区



## ■板橋区の基本データ (平成24年4月1日現在)

面積	<b>32.17</b> km <sup>2</sup>
位置	東経 <b>139度37分</b> から同 <b>44分</b> 北緯 <b>35度43分</b> から同 <b>48分</b>
海拔	最高地点 約 <b>35</b> m (徳丸変電所付近) 最低地点 約 <b>2</b> m (荒川と新河岸川に挟まれた地点)
世帯数	<b>279,323</b> 世帯 (うち外国人 9,771世帯)
人口	全体 <b>536,335</b> 人 (うち外国人 17,052人) 男性 <b>266,266</b> 人 (うち外国人 7,621人) 女性 <b>270,069</b> 人 (うち外国人 9,431人)

## No.1 板橋区のNo.1

- 印刷・同関連業の製造品出荷額等 **3,097** 億円 (全国1位)  
(工業統計調査 平成20年/全数調査)
- 工業全体の製造品出荷額等 **5,532** 億円 (23区中1位)  
(2010東京の工業 従業者4人以上)
- 病院・一般診療所の病床数 **9,846** (23区中1位)  
(東京都福祉保健局「福祉・衛生統計年報 平成22年度」,「同 平成21年度」)

## 1日 板橋区の1日

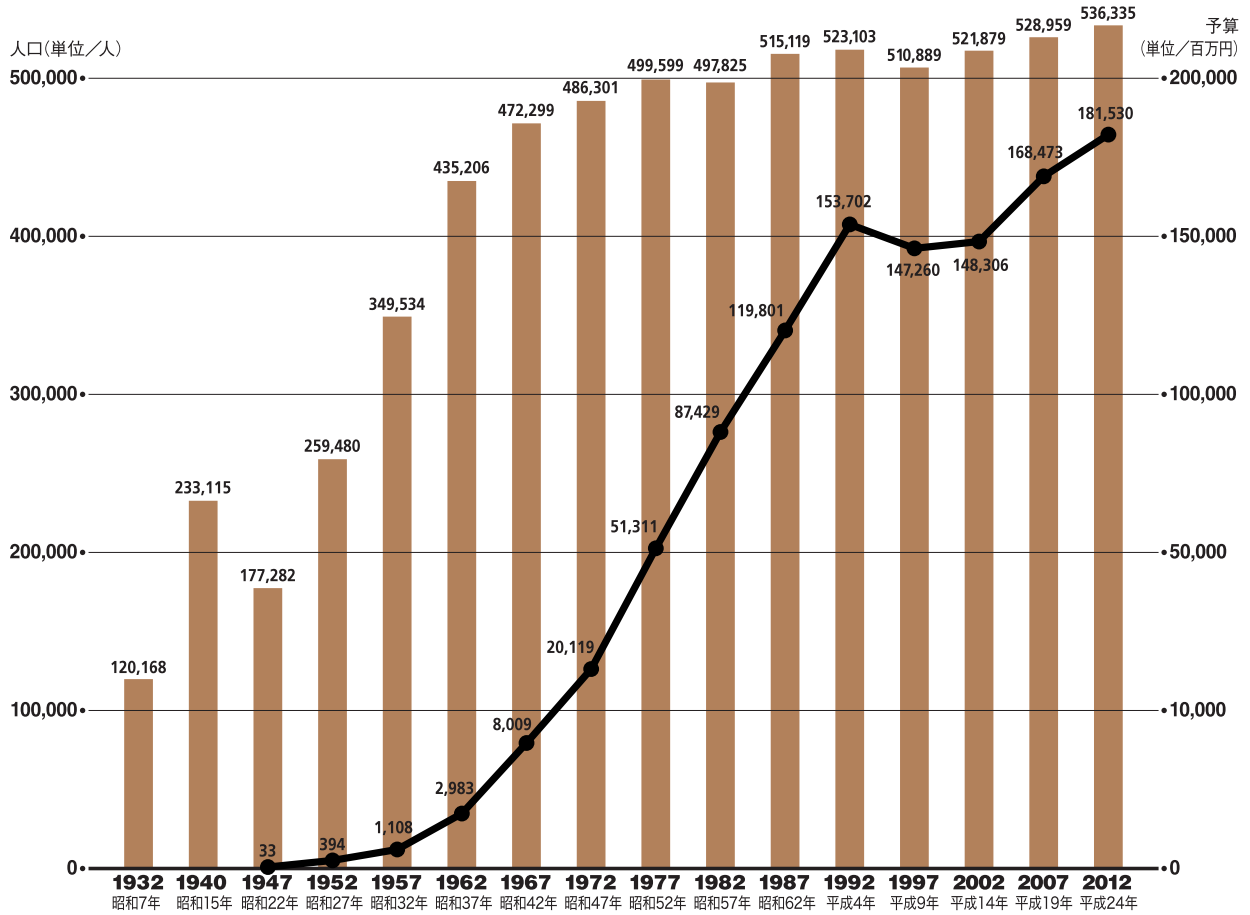
(年間の件数などを365で割った数字 平成22年)

- 出生届出件数 **11.9** 人
- 婚姻届出件数 **10.1** 件
- 転入届出件数 **82.9** 人
- 転出届出件数 **84.2** 人
- 死亡届出件数 **12.7** 人



# 80 板橋区80年の人口と予算の推移

■ 人口／各年10月1日時点、平成24年は4月1日時点  
● 予算／一般会計歳出決算額(平成24年度の額は、当初予算額) 単位:百万円(十万円単位で四捨五入)  
 昭和7年度の一般会計歳出決算額は、23万989円54銭



# TOP3 板橋区のトップ3



工業

(工業統計調査 平成20年/全数調査)

■業種別の製造品出荷額等

**1位** 印刷・同関連業 **3,097** 億円

**2位** 業務用機械器具製造業 **988** 億円

**3位** 鉄鋼業 **796** 億円



農業

(板橋区農業経営実態調査報告書 平成23年8月1日)

■野菜生産量

ダイコン **66,173** kg

ジャガイモ **34,735** kg

キャベツ **20,451** kg



駅

(1日平均 平成22年度)

■区内駅の乗車人員

JR埼京線板橋駅 **29,871** 人

東武東上線東武練馬駅 **29,608** 人

東武東上線成増駅 **29,199** 人





## 板橋区制施行80周年

●80周年マーク

区の鳥「ハクセキレイ」・区の花「ニリンソウ」・  
区の木「ケヤキ」をモチーフとしています



●オフィシャルロゴ

「つなぐ」(橋を渡す)がテーマ。円をつなぐスタイルは斬新で、  
“未来へ発信する板橋区”を印象づけ、  
進取の気概で区政経営に取り組んでいく姿勢を表現しています

板橋区制施行80周年記念誌 平成24年10月 発行

発行／板橋区政策経営部広聴広報課 〒173-8501東京都板橋区板橋二丁目66番1号 電話 03(3579)2025

制作／株式会社ドーンデザイン研究所

刊行物番号 24-80